

【 第6回 東アジア選手権 】

2018年7月3日～7月8日 開催地:香港

試合結果報告 7月3日 (火)

JPN	VS	CHN(中国)
13	前半	4
16	後半	12
29	合計	16

個人得点

名前	得点	合計
1 石濱 壘		0
2 佐藤 陽太	3	3
3 久保寺 歩夢	3	3
4 可児 大輝		0
6 窪田 礼央	5	5
7 安平 光佑	2	2
8 清水 裕翔	2	2
9 吉田 守一		0
11 藤川 翔大	3	3
12 矢村 裕斗		0
13 角本 洵		0
14 山口 直輝	1	1
15 石嶺 秀		0
16 大禮 佑介		0
18 梶山 瑞生	5	5
19 金津 亜門		0
25 鳶谷 大雅	5	5
	29	29

戦評

U-19チームの初陣は、高身長選手をそろえた中国。日本チームは、DFで強く接触する事、OFでは無駄なドリブルを減らし、ボールをつなぎながら各自が前を狙うこと、どのような相手・環境でも自分の全力を出すことを約束に試合に臨んだ。

序盤は、中国の高さを活かしたロングを決められ、OFでは硬さが見られ簡単なミスが連続したが、吉田、窪田の両3枚目がファインプレーを連発し、失点を抑えることに成功した。堅守速攻の形で多くのチャンスを作り出し、清水の体を張った速攻や梶山のテクニカルなサイドで、前半15分には9-3と先行する。その後もミスは出るものの全員の気持ちの入ったDFで相手の追加点を許さず、前半を13-4で終えた。

後半、中国の突破を狙ってくる攻撃に対して受け身になってしまい、間を割られる形で失点してしまう。日本は、攻めてはこの日好調の窪田、鳶屋の個人技で加点し、後半途中から変わって入ったGK・大禮やDFの角本、久保寺の速攻で主導権を渡さなかった。終わってみれば多くの選手が出場の機会を得て活躍し、29-16で無事に初陣を飾ることができた。国際大会を初めて経験する選手が多いが、物怖じせず自分らしさを発揮して戦う姿に頼もしさを覚える。明日以降、厳しい戦いが待ち受けるが、チーム皆の心を一つにし勝利を目指して成長したい。

なお、この試合のベストプレイヤーに、窪田礼央が選ばれた。

報告記入者 :

吉田耕平